

平成25年度

第58回 長野県中学校連合教科研究会

技術・家庭

目次

I 研究テーマ	1
II 研究の趣旨	1
III 参加校の研究要旨一覧と参加者名、指導者名	1～2
IV 研究問題と協議内容	2～6
V 本年度の研究の反省と来年度の方向	7
VI あとがき	7

I 研究テーマ

生徒が自ら課題を追究し、生活に生きてはたらく力を高めていく指導はどのようにしたらよいだろうか。

II 研究の趣旨

学習指導要領による技術分野・家庭分野の目標や生徒の実態を分析して、それぞれの指導内容について検討していく。題材や題材展開、一時間の学習過程のあり方について実践を通して研究を進めたい。つける力を明確にし、「生活に生きてはたらく力」とは何か、生徒の具体的な姿を通して語ることのできるような研究を進めていく。技術・家庭科としてこれからの時代を見通して、こんな題材を生徒にぶつけてみたいという、教材観にかかわる根本的な教師の思いにもふれていきたい。

III 参加校の研究要旨一覧と参加者名、指導者名

第一分科会

指導者 竹内 秀昌 先生（中信教育事務所指導主事） 司会者 飯野 敏行 先生（原村立原中学校） 記録者 小林 和仁 先生（松本市立鎌田中学校） 世話係 野澤 重徳 先生（附属松本中学校）		
芦原中	レポートなし参加	鷲見 学
丸子北中	レポートなし参加	三浦 康典
下諏訪社中	自ら課題をもって追究し、自分の学びに充実感や達成感を味わえる生徒の育成～どの生徒も「できた」、「わかった」と感じられる授業を目指して～	小島 一生
原中	司会者	飯野 敏行
箕輪中	友と学び合いながら、伸びを実感できる生徒	五味 和高
松川中	互いの考えを伝え合うことを通して、技術を適切に評価する能力を育成する指導はどうあったらよいか。	小松 裕貴
南木曾中	レポートなし参加	堀内 直人
広陵中	生徒が友と関わりながら問題を解決していく指導はどうあったらよいか。	佐藤 要
山ノ内中	レポートなし参加	藤澤 樹
清水中	つながり、高め合いを実感できる授業	矢代 祐介
鎌田中	記録者	小林 和仁
丸ノ内中	レポートなし参加	澤谷 昌英
安曇中	生徒一人ひとりが、課題をもち、支え合いながら課題解決に取り組む指導はどうあったらよいか。	津金 一彦
附属松本中	世話係	野澤 重徳

第二分科会

指導者 古野 房子 先生（南信教育事務所指導主事） 司会者 大滝 由紀子 先生（安曇野市立三郷中学校） 記録者 長谷川 美佳子 先生（松本市立女鳥羽中学校） 世話係 本木 善子 先生（附属松本中学校）		
丸子中	レポートなし参加	宮坂麻衣子
赤穂中	かかわりをもちながら、自らの伸びを実感できる技術・家庭科の指導の工夫	中島 有美
飯田西中	自分・家族・地域社会のよりよい生活をめざす技術・家庭科の指導～生徒	牧野 優子

	のキャリア発達をめざして	
三郷中	司会者 対象と向き合い、友と関わりながら、自ら学んだことを実生活に生かしていこうとする生徒	大滝由紀子
小布施中	レポートなし参加	伊藤さゆり
更北中	レポートなし参加	渡辺 恵子
附属長野中	家族のための食事を計画する力を高める指導の在り方	唐木 紫織
丸ノ内中	レポートなし参加	杉原 慶子
開成中	学んだことを生活に生かそうとする態度を育てる指導のあり方	小池 知子
菅野中	主体的に課題に取り組み考えを伝え合いながら生活を工夫できる生徒の育成～「ささき式ゆかた DE コーディネイトを学ぼう！」の教材開発と実践を通して～	佐々木宏美
女鳥羽中	記録者	長谷川美佳子
附属松本中	自らの生活を見つめ直し、実践していこうとする態度を育む技術・家庭科の学習～判断する観点を広げながら生活をよりよくしていく態度を培っていく家庭分野の学習～	本木 善子

IV 研究問題と協議内容

【第1分科会】

1 討議題 「友とのかかわりの中で、自ら課題を追究していく授業について」

- (1) 松本市立安曇中学校「生徒一人ひとりが、課題を持ち、支え合いながら課題解決に取り組む指導はどうあったらよいか」
- (2) 塩尻市立広陵中学校「生徒が友と関わりながら問題を解決していく指導はどうあったらよいか」

【質疑・討議】

(安曇中学校の発表について)

- ・LED ポケットライト製作の練習題材として、電子ルーレットの製作を行っている。題材展開の工夫についてはレポートの4 p を参照してほしい。
- ・技術科の製作の意識づけとして、サイエンスコンテストへの参加を行っている。プロペラカーの製作をしているのだが、最初は理科や小学生の工作のようで、生徒の気持ちが高まるのか心配だった。生徒は一生懸命に製作し、速さを競う姿があった。学年縦割りで競技を実施した。
- ・電気分野では、LED ポケットライトの製作を行っている。前述のプロペラカーの発展形として2年生では、プログラムカーの製作を行っている。スライドスイッチの取り付けや、車を前後に動かすためにはどうすればいいかなどを生徒に考えさせている。スライドスイッチの内部にジャンパー線を用いて正転逆転の車が完成する。車体を軽くする工夫として、発砲スチロールをカッターで削る生徒の姿があった。
- ・推進力の計算を行う時に、ニュートンばかりを使った計測を行ったが、失敗に終わった。改良を重ね、デジタルのはかりと滑車を利用した計測を行ったところ、17g の推進力があることが分かった。今後は、加速度記録タイマーを使用して、加速度の計測も行ってみたい。
- ・電子ルーレットの基盤とモーターの使用を合わせることで、難易度は増すが、面白さも大きくなる。こういった学習を通して、様々な経験から一つのものを作る人間に育てていきたい。
- ・電子基盤の修理の際に、どのような原因での故障が多いか？
→モーター内のコイルを熱しすぎると断線することが多い。もう一点は IC の取り付けが生徒にとっては難しい。

(広陵中学校の発表について)

・マイコン制御の LED ライトの製作を行っている。プログラム制御とエネルギー変換の複合教材である。教育課程研究協議会では、プログラムの授業を行った。アクチュエータは「LED 1 2 個、ブザー」、センサーは「CDS、音センサー」である。ライト部分の製作に 10 時間をかけた。はんだ付けが初めての生徒が多く、部品を焦がしたり、熱しすぎて断線させたりする生徒の姿があった。

・プログラミングの学習では BASCOM-AVR を使用した。覚える必要のあるワードは少ないため、パソコンの使用になれた生徒は簡単に打ち込むことができる。LED を光らせるためにはどうすればいいかを考えながら、プログラムに慣れることのできる題材である。

・自分が願う LED の光らせ方のプログラムの設計、製作を行った。その中で、グループ討議が必要な場面を設定した。具体的には、途中経過を伝え合う場面で、お互いの LED ライトが正しく光っているのかを見合う場面だ。

・グルーピングはパソコンの使用に慣れない生徒と慣れた生徒で行った。

・どのようなプログラムを製作したいのかを、お互いに伝えやすいような学習カードの工夫を行った。

・学習カードの生徒の記述から、まずフローチャートを日本語に書き換える活動が必要であると感じた。苦手に感じる生徒のスマールステップとなるだろう。

・関わり合いを持たせることのむずかしさを感じた。生徒の中の必要観のなさが垣間見えた。教師の一方的な押し付けになりがちである。情報の分野でいかに関わり合いを生むかが課題だろう。

・計測と制御の題材に関して、各校でどのような実践をしているのか知りたい。

・写真立ての製作の中で、LED を光らせるプログラムを作成し、制御している。しかし、光らせる目的が設定しづらい。プロロボなどの動きがあれば目的も設定しやすい。例えば、地震で倒れたらライトがつくといったプログラムを作れたらいいのだろう。生徒のやりたいをひきだすために、プログラムの目的を設定したい。

・「エネルギー変換」のあとに「プログラムによる計測と制御」の題材を展開していくつながりが一番いい。大切なのは人や社会とのつながりを生徒に意識させることだ。例えば、快適な空間のための、温度管理など身近な問題に近づけて考えたい。

・この分野に関してはとくに題材の選定の必要性を感じる。圧力センサーや温度センサーを利用したプログラムの作成などが普段の生活と結びつけるときに有効だと思う。さらに、学び合いという観点から考えると、プログラムを作るためにかかわるのではなく、課題への取り組み方を 2 人 1 組での製作とするなどの工夫も有効か。

・トランジスタや CDS などを用いて、デジタルとアナログの橋渡しをこの場面で学習するのもいいだろう。

・LED ライトの製作を「材料と加工」と「プログラムによる計測と制御」の複合題材として行っている。製作を終えた段階で一旦家庭に持ち帰って使用させ、さらに改良したいという気持ちも持たせてからプログラミングを行っている。より目的意識を強くもてるだろう。

【指導者のご指導】

(安曇中学校の発表について)

・理科とのかかわりをねらいながら題材が展開されている。理科はサイエンスで、技術のテクノロジーである。それぞれの特徴をどう生かすかを考える必要がある。技術・家庭科は理科の学びをどう生かし、いかに社会に根ざす力を養うかが求められる教科である。

・生活経験の乏しさから多くの生徒は、抵抗には極性があるのかどうかという知識はなく、教師から見て「こんなこともわからないの？」の連続である。しかし、生徒の実態とのギャップを理解すべきである。できる生徒に進度をあわせがちだが、1 人 1 人がどのような状況なのかを把握することが大切であ

る。大切なことは、何を作るかではなく、何を学ばせるか。それぞれの先生方がもつ専門的な部分をお互いに情報共有し、教師の資質を高めていきたい。

(広陵中学校の発表について)

・技術分野は特別だと思っている限り、他教科において行かれてしまう。何を学ばせるかをはっきりさせたい。広陵中学校は「共学」をテーマに研究を進めている。「プログラムによる計測と制御」の学習においても、ただ単に話し合いをしてはいけない。人とかかわることが目的なのではなく、学びを深めるためにかかわりが必要となるような授業を仕組みたい。そのためには、処理手順を考えさせることが大切だろう。プログラミング言語を理解することが大切なことではない。例えば、サンプルプログラムの提示をすることが、アドバイスをしあうための動機を生む。さらに、最終的には社会とかかわらせて考え、社会の中でプログラムがどう使われているのかを学ぶ必要がある。LED ライトを使用する場合は、例えば信号の働きなどを関連付けて考えていきたい。

・家庭分野の学習はすぐに生活に生かすことができる。しかし、技術分野の学習はすぐに生活に生きるわけではない。そのため、社会とのつながりを意識しながら授業を展開することがもとめられるのである。多くの先生方が悩んでいる題材選定も、ベストな題材はないだろう。しかし、どの題材でも使い方で変わる。この部分を自分で考え、工夫し、このような研修の場で共有していきたい。

2 討議題 「評価する力の育成について」

(1)松川町立松川中学校「互いの考えを伝えあうことを通して、技術を適切に評価する能力を育成する指導はどうあったらよいか」

(2)松本市立清水中学校「つながり、高め合いを実感できる授業。」

【質疑・討議】

(松川中学校の発表について)

・どれくらいの費用時間を有したのか？

→2×4は安価。蛍光灯で約3万円。ECメーターが1万円。p h計は約1万円。

・環境設定の工夫は？

→条件は「育てたい株数」と「配置」。題材展開は全12時間。条件設定と適切な作業の仕方については座学で確認した。

・冬場に蚕を飼って育てるための栽培の装置を作りたいと考えている。蛍光灯を使用してみようと考えていたが、LEDの特徴や良さは？

→LEDだと色の違いで生長の差が生まれる。光の波長の違いが影響しているようだ。

(清水中学校の発表について)

・木工の場面で現在の社会と結びつけることは難しいと感じる。

・木組みを取り入れる際に30人学級でみんながバシッと組むことはできるのか？

→当然、バシッと決まらない生徒もいる。しかし、寸法通りでなく、少しゆるい方が組立はしやすい。「実際の現場でも、少し遊びがなければ作業にならない。」と言って、慰めてあげる。

・題材展開の中では、スカイツリーを紹介する場面を設定し、3角形が多いことに気付かせ、なぜ3角形なのかを考えることを通して、構造にはすべて意味があることを抑えるようにしている。これが、技術分野での学びと実社会との結ぶつきになると考えている。

・各学校で、材料と加工に関する技術を学ぶときにどのような題材を扱っているか？

→本立てをキットで制作している。基本的な技能の習得を目指している。

→アガチスの一枚板で、自分のうちに必要なものを探し、ラックやケースを製作している。

→身の回りのものを観察し、なぜそのような形をしているのかを考える。

→マンガ、CD ラックの製作。

・技術を適切に評価し活用する力をつけるためにどのような題材の工夫を行っているか？

→今話題の原子力発電の切り口から、手回し発電を使って発電について考えている。

→ガイダンスの場面が社会とのつながりを考えやすい。さらに、エネルギー変換の場面でも扱いやすい。

→塩尻はブドウや高原野菜の栽培が盛んに行われている。農家の方に協力を依頼し、畑をおこすことや、肥料の散布をお願いしている。しかし、評価をするという点が難しい。

【指導者のご指導】

(松川中学校の発表について)

・生徒に提示する教材として、ビデオを自身で製作していることから、「デジタル作品の設計と制作」の題材の示範にもなっている。

・本時、生徒は作業をしていないが先生方はどう考えるだろうか。今回は「技術を適切に評価し活用する力」に焦点を当てている授業であるが、「生活を工夫し創造する能力」に焦点を当てた授業でもある。水菜栽培を自分もしたという経験が大前提となる。

・先生方は技術を適切に評価する授業を組み込んでいるだろうか。多面的・多角的にその技術を見て、それぞれの良いところ、悪いところを加味したうえで判断できる力を養いたい。

・「根拠早見表」などの工夫のおかげで友との関わり合いが有効になっている。最終的に判断をするために友に意見を求める必要がある課題設定になっている。実現可能かどうか分からない状態では評価することはできない。これからの授業として、この松川中の実践が広まっていくだろう。

(清水中学校の発表について)

・常に社会を意識させることで授業が面白くなる。技術のガイダンスでは社会とのつながりを意識させたい。物を作る楽しさだけでは今の生徒は興味・関心が高まらないのが実状であろう。

・学習指導要領で定められた4内容で、それぞれの先生の裁量で時間をかける部分があってもいい。

・木組みから学ぶことは多い。キハダを使うのは素材研究であり、ただ設計させるのではなく、基本設計を教師がいかに示すのかを吟味するのが教材研究である。やりたい題材をどう授業で使うのかを研究していきたい。

・前任の先生の特性を生かしながら、自分を高めていくことも大切にしていきたい。

3 討議題 「生徒に対する支援の在り方」

(1) 下諏訪町立下諏訪社中学校「互いの考えを伝えあうことを通して、技術を適切に評価する能力を育成する指導はどうあったらよいか」

【質疑・討議】

(下諏訪社中学校の発表について)

・先生方の安全管理に関するノウハウを教えていただきたい。

→何人かにけがをさせた経験がある。バンドソー、半田ごての使用時など。また、オスモカラーの使用時には灯油で手洗いをさせたところ、手が荒れてしまった。普段気を付けていても、そういう事故は起こってしまう。しっかりと気を付けていきたい。さらに、絆創膏や救急箱などの準備などをして、起きてしまったらどうするかをきちんと考えていきたい。

・身支度について。手ぬぐいは回転系の切削工具には危険。指導書に防止の着用を義務付けるように書かれていたのだが、どうなのか？

- ・帯のこ盤の危険性。目や顔のけがを防がなければならない。特にはんだ付けには安全メガネが必要だと思っている。道具の使用に関する安全上の使用をポイント絞って指導していきたい。
- ・帽子、手ぬぐい、安全メガネの着用は？
- ・はんだ付けでやけどをする生徒の数が0で終われるように努力している。はんだの作業中は絶対に立たせない。徹底して教授していく。
- ・塗装中に目に塗料が入ってしまい、病院に連れて行った。北海道では授業中に扱う薬品についての詳しい取り決めがあるようだ。長野県ではそういう取り決めがあるのだろうか？
- ・カインズホームで売っている安全メガネも有効。
- ・木材をやすり掛けする際の木屑にも反応してしまう生徒がいる。
- ・木材に触れるとアレルギー反応が出てしまう生徒がいた。使い捨ての薄い手袋で対応した。

【指導者のご指導】

- ・ユニバーサルデザインをご存じだろうか。いろいろな生徒がいる学校現場で、みんながわかるように掲示物や板書を工夫することが必要である。下諏訪社中の実践では、教授法と KYT シートの使用について述べられていたが、目の付け所がいい。子どもたちに考えさせようとするときに、教えることと考えさせることの線引きが一番重要なところ。生徒によっても違うし、授業展開によっても違う。教えこむことをためらわない方がいい。特に安全指導の場面ではそうである。具体物を示さないで終わってしまう授業で理解を深めることは厳しいだろう。せつかくの技能系の教科性を生かしていきたい。どんなに素晴らしい実践も、けがをさせてしまったら意味がなくなってしまう。けがをさせないでねらいを達成することを目指していきたい。
- ・安全管理上の注意事項に関しては、指導上の手引書に昭和58年のものが記載されているが、これも参考にしていく。
- ・技術分野の授業での作業時に帽子をかぶることは、作業の心構えをつくることや、清潔感を持たせるためという意味合いも持つ。はんだ付けでは長袖を着たり、安全メガネをしたりすることは大事である。各校でそろえる。安価なものでもいいので、一人1つは準備したい。
- ・卓上ボール盤の使用では、髪の毛の長い生徒の場合、髪の毛が巻き込まれることがある。様々なケースを考えて対応したい。
- ・アレルギーもかなり増えている。4月当初に各生徒のアレルギーを確認し、生徒の要望に応じた対応をしていきたい。マスクの準備や、換気にも気を付けていきたい。
- ・けがをさせてしまったらすぐに校長や教頭に報告し、まずはきちんと対応をすることが大切である。けがや事故を0にしようという意識を先生も生徒も全員で高めて授業をしていかなければならない。

【第2分科会】

討議1 自ら課題を追究し、生活に生きてはたらく力を高める**個の追究**と**グループ活動の指導**の在り方

1 レポート発表

- (1) 作品完成への願いを持たせ、友と関わり作品の良さを認め合うことで自信を持って使用していく自分だけのバッグ製作の実践。(赤穂中)
- (2) 完成することを目標としがちな生徒が、個別活動やグループ活動を通じて自分なりに試考錯誤し、良い結果につながれば後の自分の生活への工夫に生きることを検討した実践。(開成中)
- (3) 伝え合いが苦手な生徒たちが和式の着装とコーディネート学習の融合の場面で、「付箋紙アドバイス」の活動を通じて受け手が求める情報を伝え合い自分の考えに生かした実践。(菅野中)

2 協議

- (1) 作品がデザイン重視に偏らないようにするためには、製作を通じてどんな力をつけるのか、必

要な技能は何なのか、今まで学習してきたことをどう生かしていくかを教師が明確にしておくことが大事なのではないか。

- (2) 同じ悩みを解決し合い自分の作品に反映させたり、見合いアドバイスをし合ったりするグループ活動を取り入れることが有効な場面もあるが、基本的には個別活動を重視し、個に返せるようにしていくべきではないか。
- (3) 生徒が限られた時間内で必要な情報を伝え合えるために、付箋紙の書き方までおさえておく。受け取る側が欲しい情報について付箋紙に書いて伝えることは、自分の考えと向き合い考えをより広げていくことにつながるのではないか。

3 指導者の指導

- (1) 個に応じた教具の開発は、生徒の意欲づけにつながる。前時の評価をもとに個別追究できることを保証した上で、必要な場面でグループ・ペア学習を設けると有効になる。
- (2) 評価規準の設定については、4観点のどの観点を含んでいるのかを確かめることが必要。「評価規準に盛り込むべき内容」を確認する。この題材のよさは、中学生がピザを作ることを通して、自分の体は自分で管理するという点にある。
- (3) 新学習指導要領では、言語で工夫することを表現できるように指導していくことが必要。ツールとして用いた付箋紙が言語活動を引き出し、その子が相手の付箋紙を見て、考えを伝えているかどうか、習得した知識をどのように活用しているかということを適切に評価する。学び合いでは、生徒が必要感をもっているか、それが1時間のねらいを達成させるために必要なものかを判断する。

討議2 生活に生きてはたらく力を高める他教科・領域とのかかわりの在り方

1 レポート発表

- (1) 家族のための食事作りの計画する力を高めるために、モデル家族での食事の違いを理解することを通して、自分の家族に合った食事作りに生かした実践。(附属長野中)
- (2) 自分が願う卵料理の調理場面で仲間と評価し合うことで、より課題を明確にすることにつなげた実践(更北中)
- (3) 商品選択の場面で、友との意見交換を通じて学習してきた知識・技能を応用し、着目する観点をより広げることにつなげた実践。(附属松本中)
- (4) 自立の視点ではなく、共生の力が高まる視点で他教科等で学んだ知識を活用し、「生き方」についての考えを明確にするためにレポートにまとめた実践。(飯田西中)

2 協議

- (2) 消費と環境の題材例として製作した綿入れ半纏を着用することで、不要になった暖房時間を計測する等客観的な数字で成果を振り返れるようにすると効果的。

3 指導

- (1) 学習指導要領のどこをどのように扱うのか、何をねらうかによって題材展開が変わってくる。食育の観点からは、常に家族との食事の楽しさの実感を意識している点が良い。モデル家族を扱う場合は、自分と家族の生活の中に反映しやすいものにする。
- (2) 思考・判断・表現等評価し、AにするかBにするかは、家庭科の場合は、多面的に考えているか、具体的に考えているかを視点にするとよい。
- (3) 各教科の年間計画の発表で関連した題材を扱う場面を生かし、授業の題材展開に生かす。その子が培ってきた力を引き出すことを大切に、生徒をとらえられる視点をもつことが大事。また、どの時期にその題材を扱うかによって評価の程度も変わってくる。子どもたちがよりよいものを目指し意思決定するという個人的な意思決定の流れを大切に、特に社会科の消費者教育を十分

活用していきたい。

- (4) 人間形成能力を育むために、年間を通して学習してきたことを改めて1枚のレポートにまとめ直すことで多面的に自分の考え方を結びつけることは有効。これには、学習材に対する思考の蓄積とし振り返ることができる。

討議3 自ら課題を追究し、生活に生きてはたらく力を高める『生活の課題と実践』の指導の在り方

1 レポート発表

- (1) 学校を共通題材として危険箇所や安全対策を調べ、同じ考えをもった生徒たちが情報交換を行うことで必要感をもって各家庭に応じた対策を考えることにつなげた実践。(三郷中)

2 協議

- (1) 家庭実践までの準備・計画を大切にし、必要感をもって一人で実践できるようにする。

3 指導

- (1) 家庭と学校が関わるように題材展開を通して位置づけたところがよい。『生活の課題と実践』では、生活の中にある既習内容とかかわった課題を見つけて解決する際、どの子にも実践しやすいか配慮することが必要。また、期間を限定し、習得した内容を生かしているかその子なりの工夫が見られるかを学校で個別指導しておきたい。

(文責 女鳥羽中学校 長谷川美佳子)

V 本年度の反省と来年度の方向

◎本年度の反省

項 目	内 容
○本年度の研究テーマについて	<ul style="list-style-type: none">・もう少し具体的にした方が深まった話し合いができると思います。・生徒の興味関心を高めるために必要なことであったと思います。・よい ・さらに周知できればと思う・今年のような方向でよいと思います。たくさん学校があるのであれもこれも盛り込むのはムリですね。・幅広く意義を伝えられてありがたい。・技術という授業の存在理由に根ざしてよい。・“自分で課題をもつ”という指導が、私の中でも悩んでいることなので勉強になります。・自分の生活を自分で作り上げていける生徒を育てるために、今年度のテーマのような方向でよいと思います。 →今年度の研究テーマの方向でよいと思います。
○研究の方向について	<ul style="list-style-type: none">・技術の重要な観点である「評価の活用」にむけたらどうでしょうか。・よい ・たくさんの先生方の実践を教えていただき参考になります。・社会とどうつなげていくかという視座は大事。・題材設定に悩むことがあるので、他の先生方の実践が知りたいです。・家庭科の先生方が集まる機会はなかなかないので、集まって、それぞれの指導内容や方法をお聞きできることがとてもよかったです。 →評価について取り組んでもらいたいと指導者の先生からご指導がありました。

<p>○レポートの書き方(項立て)について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度の自由度を考慮してくださってありがたかった。研究授業で、論文で、研究の方向で、A4のメモで…等、先生方のご都合もあるので、そうしていただいて助かりました。 <ul style="list-style-type: none"> ・よい ・分かりやすくてよかった ・表の形式は分かりやすい。他は細かいものはいらないと思う。 ・自分が書いていないのでよく分からないですが、読みやすいと思います。 ・テーマ設定から課題まで、とても分かりやすく、有難かったです。 ・よいと思いますが、提出される先生方の多大なご苦勞を感じます。より簡潔になるよう考えていただけたらありがたいです。 ・指導案掲載の形にとらわれなくてもいいのではないか。見本がそうになっているためレポート作成に困っていたり参加をためらう人もいる。 ・項立ての参考があり、どんな内容を書けばよいか分かりました。 <p>→今年度の書き方でよいと思います。</p>
---------------------------	---

◎来年度の方向

<p>○来年度の研究テーマ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し具体的にした方が深まった話し合いができると思います。 ・社会とのつながりについて <ul style="list-style-type: none"> ・「生活に生きて」→「社会に繋がる」 ・工夫のところ、評価のところ、これから扱っていくべき内容がふくまれているものはどうでしょうか。 ・知識、技能の向上や、思考・工夫の高まりをいかに家庭で、実生活での実践に、意欲的につなげていけるか私自身悩んでいたのも…ご意見いただければと思います。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領技術目標にせまりたい。 ・生活に生きてはたらく力の解釈を分かりやすくサブテーマで表せるとよいと思います。 ・できれば分野や手だてなどで具体的に決まっていると全県でそのことについて考えられると思います。 <p>→研究テーマはこの方向でよいと思います。サブテーマを工夫できるとよいです。</p>
<p>○来年度の研究の方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の重要な観点である「評価の活用」にむけたらどうでしょうか。 ・社会とのつながりを意識した授業について ・新CSで取り入れられた生活の課題と実践の内容やガイダンス、評価のあり方等、検討できるとよいと思います。 ・教育課程のものなど、そのままのものを持ってきていただくと自分がやる時に勉強になります。 ・今年度と同様に他の学校の先生方の実践や指導方法をお聞きできるととても勉強になります。 <p>→評価について取り組んでもらいたいと指導者の先生からご指導がありました。</p>
<p>○その他研究会までの日程や当日の運営について(メールを使用した文書送付やレポート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メールの使用でトラブルがあってスムーズにできなかったのも、お互いに負担にならないように工夫できればと思いました。 ・担当から伝わってこないこともあったので、直接届くものであればと感じました。 <ul style="list-style-type: none"> ・便利でありがたい。 ・特にありません。本日はありがとうございました。 ・よい <ul style="list-style-type: none"> ・司会者の先生へもメールがよいと思います。 ・よいと思います。(提出が)遅れてしまっすみませんでした。 ・参加についてよく理解できておらずご迷惑をおかけしました。 ・細やかな配慮をしていただいて大変有難かったです。 ・写真を入れたレポートであったので、メールで送付させていただける方がカラーで送

ト提出について)	ることもでき、よかったですと思います。 →今回教科委員長のメールトラブルがありご迷惑をおかけしました。
○その他 研究会全般を通して改善したい点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加費（個人、学校）の負担をなくしたい。学校負担金の出どころがないので。附属中の生徒の接待等なくしてもよいのではないか。 ・よいです。生徒さんにていねいにしていただきました。 ・今の形で進めて良いと思う。 ・ありません。 ・レポートがなくても参加できるこの現状はありがたいです。 →参加費と生徒の係活動は関係がないので、今年度の方向でよいと思います。

VI あとがき

晩秋の一日、県下各地からお集まりいただいた先生方には、実践レポートや使用した資料などをもとにして、数多くの提案や討議をしていただきました。

本年度の研究会では、限られた指導時間の中にあっても、資料や題材展開、学習課題の設定等を工夫し、実践されているレポートが多く見られました。また、参考作品をお持ちより頂き、それぞれの学校の素晴らしい実践に学ばせて頂き、「技術・家庭科の学習」を生徒のために構想していきたいと取り組まれていることがよくわかりました。討議においては、それぞれの実践のよいところを学んでいこうとする先生方の熱意が感じられました。来年度もこのような熱心な研究会にしていきたいと考えております。

終始適切で温かいご指導をいただきました中信教育事務所指導主事竹内秀昌先生、南信教育事務所指導主事古野房子先生には心から御礼申し上げます。

また、研究会を実りあるものにしてくださった司会の原村立原中学校飯野敏行先生、安曇野市立三郷中学校大滝由紀子先生、細かく記録をとりお忙しい日程の中で研究のまとめにご苦勞いただいた記録の松本市立鎌田中学校小林和仁先生、松本市立女鳥羽中学校長谷川美佳子先生、数々の実践を携え熱心に協議していただいた参会の先生方に心から感謝いたします。ありがとうございました。

委員長 本木 善子
副委員長 唐木 紫織